松江だんだん

会 報 第６号

平成 25 年度の懇親会は【松江城 姉さま鉄炮隊】をお迎えしました

近　畿　松　江　会

ふるさと松江

作詞　近畿松江会

一

神話は語る　佐陀加賀
ご縁嬉し　八重垣
熊野神魂も　鎮座して
だんだん　松江　ふるさと

二

千鳥お城　石垣
嫁が島に　茜さす
松江大橋　カラコロと
だんだん　松江　ふるさと

三

蜆美味し　宍道湖
波に遊ぶ　夕鴨
勾玉湯の町　浴衣がけ
だんだん　松江　ふるさと

四

牡丹薫る　八束路
紫烟けむる　中海
恵比寿ショコホイ　五本松
だんだん　松江　ふるさと

五

意宇川ほとり　阿陀加夜
城の稲荷　神幸祭
掛声華やか　ホーランエンヤ
だんだん　松江　ふるさと

曲は　故郷（ふるさと）作曲　岡野　貞一

うさぎ追いし　かの山・・・

※　近畿松江会では歌詞を募集しています

ご応募は事務局へお問合せください

松江だんだん　　近畿松江会　会報第６号

目　　次

表紙題字　・・・近畿松江会　前顧問　和田亮介氏

会歌「ふるさと松江」　・・・・・・・・・・ 作詞　近畿松江会

目次「会報第６号」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

ご　挨　拶　近畿松江会　会長　伊藤 征治　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

松江市長　　松浦 正敬　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

退任ご挨拶　前 会 長　苅田（かりた） 運三郎　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

前 顧 問　和田 亮介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

前相談役　伊藤 雅義　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

平成２４年度事業報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

平成２４年度収支決算書　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

平成２５年度事業計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

平成２５年度収支予算書　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

近畿松江会 平成２５年度役員名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

近畿松江会 「この一年」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

寄稿集“松江だんだん”　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

■上東川津町　井上 伸久　■北田町嵩見丁　渡辺 悟　■宍道町　小高 久始

■末次本町・京店　三成 宏二　■西持田町　鶴羽孝子

■枕木町（本庄）　木島 光子　■美保関町　花本 博　■八束町　門脇 幸夫

報　　告　松江市からのお願い

【まつえ産業支援センターの開設と、ものづくりアドバイスなど産業振興に関するお願い】　・・ 25

帰松報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

会員名簿（出身町・中小学校区別）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

広　　告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

お知らせ・編集後記　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

■ご挨拶

会長新任のご挨拶

伊藤征治（北堀町）

このたび、苅田前会長がご高齢のため退任され、後任会長に選任されました伊藤征治でございます。

当『近畿松江会』は平成 17 年、当時近畿島根県人会会長であられました和田亮介顧問が、近隣七町村との大合併による新松江市誕生(平成 17 年 3 月)を機に長年の懸案でありました『近畿松江会』設立の準備委員会を立ち上げられ、選出されました 10 名の発起人の方々と共に松江市当局を始め関係各部局とのお打ち合わせ、会の運営方法・会則制定等々にご尽力なされ、数回の発起人会を経まして平成 18 年 10 月 22 日、『近畿松江会』発足記念第一回総会・懇親会が新阪急ホテルで開催され、茲に晴れて誕生した次第であります。

和田顧問のもと初代会長・長谷川吉雄氏、二代会長・苅田運三郎氏をはじめ相談役・顧問の諸先輩方のご尽力により今日までを築かれました当会をこれからさらに充実させて行く大切な時に、この大役をお受けするには浅学非才の上、何分にも不慣れなお役目でもありますので平成 21 年から二期四年に渡り会長を務められました苅田さんのようにスムーズに行かない点が多々あることと思いますが、幸い素晴らしいスタッフの皆様のご支援を戴き、知恵を出し合い、汗を出しながら、会の運営に関われればと思う次第でございます。

予てから、故郷松江で過ごした諸々のお蔭で私の今日がある事を顧みますと、少しでも松江市のお役に立てることがせめてものご恩返しの一端になればとの思いもありお受けした次第であります。ご指名をお受けしました上は、一所懸命務める所存でございますので、前会長さん同様ご支援

の程宜しくお願い申し上げます。

さて、当会会則の目的には、　一、会員相互の親睦を図り　二、郷土の発展と活性化に積極的に参加・貢献することが明記されております。

先般、去る 6 月 3 日松江市役所内に新設オープンされました『まつえ産業支援センター』を当会スタッフに同行往訪し、同センター長藤原氏(総勢 14 名)から、『当センターは、近年の輸出主導型の不安定な経済情勢、少子高齢化による後継者不足・人材不足等が懸念される中、「水の都松江」「観光都市松江」を引き続き根幹に据えながら、松江市のまちの活性化、更なる発展が期待されるまちづくりの重点施策として産業の根幹であるものづくり産業の支援を目的。』として設立され、地元中小企業の活性化を図るための各種事業に取り組んで行くに当たり各関係機関に協力をお願いしておりますが、当「近畿松江会」の力も借りたい旨要望がございました。(P25 参照)

もとより、当会の一層の拡大・発展には何よりもその基盤になる会員の増強が必要であり、そのためには如何にして会員相互の親睦を図って行くべきかを最優先に心掛けて行く所存でございます。

さりながら、先述しました松江市に対する積極的な参加・貢献も、会として協力できる範囲には自ずから限度がありますので、会員皆様のお知恵とご支援により、可能な限り協力して行きたく、併せてお願いする次第です。

今日まで私の心の支えになっております母校松江商業の校訓にあります『誠実・質素・勤勉』を引き続き基本レールに、一歩でも二歩でも前進すべく微力を尽くす所存ですので会員皆様のご支援の程を何分宜しくお願い申し上げます。

■ご挨拶

近畿松江会の皆さまへ

松江市長　松浦正敬

皆さまこんにちは。先日は第 8 回近畿松江会総会・懇親会のご盛会、誠におめでとうございました。ふるさと松江を愛する皆さまの笑顔に触れ、たいへん楽しい時間を過ごさせていただきました。

総会では役員の改選が行われ、伊藤新会長のもと新たな船出となりました。近畿松江会の更なる発展にご期待申し上げますとともに、長きにわたって会長をお務めになられた苅田顧問様のご功績に対し、心より敬意を表します。本当にご苦労さまでございました。

また、私事となりますが、4 月に行われた市長選挙において、市民の皆さまの負託を得て第三期目の松江市政を担うこととなりました。これからの 4 年間、皆さまのふるさと松江をしっかりと守り、発展させていくべく、全身全霊をささげ、世界に二つとないまちをつくっていく所存ですので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

さて今、松江の観光は多くの方々にその魅力を知っていただく絶好機を迎えています。第一に、松江・三次間の松江自動車道が開通し、山陰と山陽の距離がぐんと近くなり、山陽方面、あるいは関西、四国、九州方面からのお客さまが大幅に増え、松江城など市内の観光施設はかつてない賑わいを見せております。第二に、空前のパワースポットブームと「縁結び」が追い風となり、良縁を求める若い女性観光客が全国から松江の地を訪れています。とりわけ今年は 60 年に 1 度の出雲大社の大遷宮もあり、八重垣神社や玉作湯神社などでは、鏡の池での占いや願い石・叶い石での願掛けに順番待ちの行列ができるほどの人気ぶりでございます。

また、先般 6 月 16 日には、松江開府の祖、堀尾吉晴公の銅像が多くの皆さまのご理解とご協力により完成いたしました。戦国武将らしい猛々(たけだけ)しさの中にも、松江開府という大事業を成就させる意欲に満ちたその姿は、市民に希望を与えると同時に、新たな観光資源として多くの方々に愛されるものと確信しています。そして、今後我々は堀尾吉晴公の偉業を讃える意味からも、松江城の国宝化に向けた取り組みを継続・強化していかなければなりません。昨年は松江城天守の築城年特定につながる祈祷札二枚が発見されましたが、これからも地道な調査を積み重ね、一歩ずつですが確実に国宝化への道を歩んでまいりたいと考えております。

最後になりますが、近畿松江会の皆さまと過ごす時間、我々を迎え入れてくださる温かい気持ちは、私にとって宝物です。これからも近畿松江会が隆盛を極めますとともに、会員の皆さまのご健康とご多幸を祈念しましてごあいさつとさせていただきます。

堀尾吉晴公銅像（松江城大手門前）

■ご挨拶

会長退任のご挨拶（本年度総会でのご挨拶から）

前会長　顧問　苅田運三郎（雑賀町

会長の苅田でございます。本日は皆様ご多用の中、第八回の近畿松江会にご出席をいただき、まことに有難うございました。

本席には、故郷松江市より去る四月の市長選挙に目出度く三選を果たされました松浦市長様をはじめご来賓の方々、又、近畿島根県市町村人会のトップ有志の方々、そして当会の名誉会員で女優の三林京子様のご来臨を賜り、更に今回も松江市のご好意により、ユニークな「姉様鉄砲隊」のご一行様がご来会くださり、盛会に本日の総会・懇親会を執り行うことが出来ますことを、まことに喜ばしく光栄に存じます。

さて、近畿松江会は平成 18 年に設立されましてより本年で八年目を迎えましたが、設立以来の松江市当局の強力な支援のもと、初代の会長・役員の方々や、会員の皆様の熱心なご努力によりまして、近畿と故郷松江を結ぶ“かけはし”として、会員相互の親睦を図り、郷土の発展と活性化に積極的に参加・貢献し、古里振興のお手伝いも出来るようにと、活動してまいりました。

ただ、会長在任四年になり、年齢も八十路を二つも超えましたので、ここで会長を交替することにいたしまして、本日の総会でご承認をいただくことにしております。

会長として、果たして会員の皆様のご期待に副うことができたのであろうかと、顧みて反省することしきりでございますが、幸い、凡愚なりに全力を投球したという満足感を持つことができましたことは私なりに大変、倖であったと思っております。ただこれも、偏に皆様方のご支援とご協力があったればのことでございまして、今ここに会長の職を退くにあたりまして、心から厚く御礼を申し上げる次第でございます。本当にありがとうございました。

最後に当たり、故郷松江市のますますのご発展と、会員皆様のますますのご健康とご多幸を祈念して私の最後のご挨拶といたします。ありがとうございました。

■ご挨拶

「近畿松江会誕生物語」

前顧問　和田亮介（宍道町）

今を去る八年前、私が島根県人会会長を引き受けた時、島根県の市町村人会の一覧表を見せられた。いくら探しても、松江会の三文字がない。

県庁の所在地ともあろう松江市がなぜ？今さらながら不思議だったが、過去の経緯はともかく、ないものは作るしかないと手をつけたのが、松江会誕生のそもそもである。

初代会長を依頼したのが、今は亡い長谷川吉雄さん。松江中学が一年上、島根大学が同期で、青春期の苦楽を共にした仲である。

氏の発案で毎月第三水曜日の夜、幹事十数名が盃を交わした。山紫水明の故郷松江にちなんで三水会と名付け、今日に至っている。

そのうち、長谷川氏の心臓病が進んだため、事務局長を務めていた苅田運三郎君が二代目会長に就いた。

裏千家茶道のチエミ夫人の叱咤を受けた彼氏の、松江会発展のための粉骨の努力がここから始まる。

以来、彼の念頭には故郷松江市の発展以外には何もなかった。一体彼は、何度松江市へ帰っただろうか。八十路を越えた身の夜行バスでの往復は続いた。彼の熱情が、故郷へ通じないはずがない。故郷と近畿松江会の絆は、日を経つにつれ深まった。

設立して日は浅いが、あまたの市町村人会の中での故郷とのつながりの強さで、他にひけはとらない。

彼が松江会に残した功績はそれだけではない。ほかでもない、故郷愛に満ちた多くの優れた人材を集めたことだ。様々な人脈を開拓、会員の裾野を拡げた。その手腕と努力には正直頭が下がる。

創立七年にしてここまでの松江会に仕立て上げたのは、一つには彼の人間としての魅力にあるだろう。あの無縫の笑顔が象徴する温かさが、他にない松江会を産み出したといって過言ではない。

今や使命を終えた彼は、会長のバトンを伊藤征治氏へ渡して、顧問の席へ退いた。彼を陰から支えた伊藤雅義、澄川光成の両君、そしてこの私は苅田君と共に舞台を降りたが、後事にいささかの憂いはない。彼が拓いた豊かな土壌に咲く、牡丹の花々をただ愛でるのみである。

■ご挨拶

「役員辞任に当たって」

前相談役・伊藤雅義（宍道町来待■出身）

この度、本会の役員を辞任させて頂きました。ついては編集部から在任中の感想を求められ、以下に一筆認めた次第です。

本会は、島根県大阪事務所管内の市町村人会の中でも最も後発の部類に属しますが、それでも早いもので発足して 7 年が経ち、今ではその活動は、数多くの先発市町村人会に勝るとも劣らずのものがあります。

小生、農水省やその外郭団体に在職中の一時期、「町と村の交流により村の振興を図る」といった業務を担当していた関係上、全国の県人会や市町村人会に接する機会がありましたが、全国的にみても本会はまことに立派です。

1～2、挙げてみますと、一つは和田前顧問の発案による会歌「ふるさと松江」の制定です。独自の会歌をもった会は私の知る限りありません。二番目は、素晴らしい会報「松江だんだん」の発行です。新聞紙タイプを発行している会は多くありますが、40 ページ弱にも及ぶ立派な冊子を定期的に発行している会を私は見たことがありません。松本広報常任幹事の手腕によるものですが、「ふるさと会広報誌全国コンクール」でもあれば、“上位入選間違いなし”ではないでしょうか？

新体制の下、近畿松江会が目的達成のため更に発展し、会員が一層楽しむ会となりますことを祈念致します。

平 成 24 年 度　事 業 報 告

月　日	曜日	時　間	行 事 等 の 内 容	場　所
1月13日	金	18:00	役員会 全国都道府県対抗女子駅伝激励会 激励金・「がんばれ島根」携帯ストラップ贈呈	加茂川館
1月15日	日	9:00	役員会：同上応援	西京極陸上競技場
1月3日～22日		11:00	前進座初春公演「芝浜の革財布」「明治おばけ暦」観劇	京都四条南座
2月15日	水	17:00	会計監査	大　枡
		18:30	役員会 H24年度事業計画確認・新役員武田貞雄承認　　児童養護施設支援について	
3月10日	木		児童養護施設「双樹学院」へ文房具等発送	
3月21日	水	18:30	役員会 古事記の旅について	大　枡
4月11日	水		第39回近畿島根県市町村人会親睦ゴルフ大会参加	箕面ゴルフ倶楽部
4月18日	水	18:30	役員会　総会の持ち方について 近畿島根県人会創立50周年記念大会応援を決定（金券販売を支援）	大　枡
5月　7日	月		近畿島根県人会創立50周年記念大会　金券申込書発送	
5月24日・25日	木・金		故郷応援団　山陰古事記の旅	
6月20日	水	18:30	役員会 総会会場・金券申し込み状況ほかについて	大　枡
7月12日	木		会長・幹事長・事務局長：松江市訪問	関係機関・双樹学院
8月29日	木	18:00	役員会　松江市訪問報告・会報ゲラ拝ほか	大　枡
9月19日	水	14:00	八束中学校大阪商人体験地産品販売応援	天神橋商店街
		18:00	役員会　総会の持ち方ほかについて	へそ
9月28日	金		第1回近畿松江会ゴルフ大会	太平洋クラブ六甲コース
9月29日	金		会報第5号発行	
10月17日	水	18:00	役員会　総会役割分担ほかについて	大　枡
11月14日	水		第40回近畿島根県市町村人会親睦ゴルフ大会参加	箕面ゴルフ倶楽部
11月18日	日		平成24年度総会	松下IMPビル
			近畿島根県人会創立50周年記念大会	ツイン21
12月7日	金		第2回近畿松江会ゴルフ大会	太平洋クラブ六甲コース
12月12日	水		平成25年度年会費納付のお願 い発送 平成25年度上期行事予定報告	

平成24年度　近畿松江会　収支決算書

（平成24年1月1日～平成24年12月31日）

収　入　の　部　　単位：円

科　　目	予　算　額	決　算　額	比較増減	備　　考
前期繰越金	0	0	0	
年　会　費	507,000	483,000	▲ 24,000	会員157口（24年度分） 会員　2口（23年度分）
総　会　費	0	0	0	総会（個人負担なし）
寄　付　金	100,000	0	▲ 100,000	
広　告　料	191,000	159,000	▲ 32,000	全22口
借　入　金	0	32,189	32,189	竹谷　奨
雑　収　入	60	13,993	13,933	預金受取利子・IUターンフォーラム案内状送料
事　業　費	300,000	322,200	22,200	島根県人会記念事業金券販売　358枚（900円／枚）
合　　計	1,098,060	1,010,382	▲ 87,678	

支　出　の　部　　単位：円

科　　目	予　算　額	決　算　額	比較増減	備　　考
総　会　費	50,000	46,830	▲ 3,170	総会会場借室料
広　告　費	42,000	42,000	0	年賀・暑中見舞い紙上掲載（山陰中央新報社）
通　信　費	150,000	94,538	▲ 55,462	切手・ハガキ・レターパック・メール便
印　刷　費	160,000	172,089	12,089	会報第5号（300部）、会議資料・案内チラシ等
事　務　費	50,000	50,505	505	HP接続料、コピー、紙代文具等
旅　　費	70,000	34,920	▲ 35,080	松江市訪問（苅田会長、有田幹事長、竹谷事務局長）
雑　　費	40,000	33,590	▲ 6,410	松江市訪問土産代、市町村対抗ゴルフ飲物代（2回）他
予　備　費	37,130	35,770	▲ 1,360	女子駅伝祝儀、同縁結びストラップ贈呈 八束中学激励
事　業　費	350,000	358,000	8,000	島根県人会記念事業金券販売　358枚（1000円／枚）
払込負担金	30,000	23,210	▲ 6,790	会費、広告費、事業費等手数料払込
借入金補填	118,930	118,930	0	前期借入金
次期繰越金	0	0	0	
合　　計	1,098,060	1,010,382	▲ 87,678	

監査の結果、正確に処理、記載されていることを認めます。

平　成　25　年　　月　　日

監　　事　　木　幡　泰　三　　㊞

監　　事　　糸　川　孝　一　　㊞

平 成 25 年 度　事 業 計 画

月　日	曜日	時間	行 事 等 の 内 容	場　所
1月11日	金	18:00	役員会 全国都道府県対抗女子駅伝激励会	加茂川館
1月13日	日	9:00	役員会:同上応援	西京極陸上競技場
1月3日～14日		11:00	前進座初春公演「赤ひげ」観劇	京都四条南座
2月 8日	金		児童養護施設「双樹学院」支援金募集案内発送	
2月20日	水	17:30	平成24年度会計　会計監査	大 枡
		18:00	役員会　　平成25年度事業計画ほか	
3月 8日	金		「双樹学院」支援金（H25年度第1回）贈呈	
3月15日	金		・荊田会長・有田幹事長・井上幹事・竹谷事務局長:松江市訪問 ・松江市駅前地下駐車場現地視察	関係機関
3月26日	火		第3回　近畿松江会ゴルフ大会	茨木国際ゴルフ倶楽部
4月 1日	月		第8回　近畿松江会総会・懇親会案内発送	
4月10日	水		第41回近畿島根県市町村人会親睦ゴルフ大会参加	箕面ゴルフ倶楽部
4月17日	水	18:00	役員会　総会・懇親会資料検討	大 枡
5月15日	水	18:00	役員会　総会・懇親会出席状況確認、 資料決定	大 枡
5月30日	木	18:00	総会直前役員会　役割分担・タイムスケジュール等確認	大 枡
6月 2日	日	11:00	第8回　近畿松江会総会・懇親会	新阪急ホテル花の間
以降毎月	第3水		役員会	
8月下旬			「双樹学院」支援金（H25年度第2回）贈呈	
9月18日	水	13:30	八束中学校大阪商人体験地産品販売応援	天神橋商店街3丁目
9月26日	水		第4回　近畿松江会ゴルフ大会	茨木国際ゴルフ倶楽部
9月下旬			会報第6号発行	
10月初旬			顧問・会長・幹事長　松江市訪問	
11月3日	日		近畿島根県人会総会・懇親会	ホテルニューオオタニ
11月7日	水		第42回近畿島根県市町村人会親睦ゴルフ大会参加	箕面ゴルフ倶楽部
12月初旬			平成26年度年会費納付のお願 い発送 平成26年度上期行事予定報告 「双樹学院」支援金（H25年度第3回）贈呈	

平成25年度 近畿松江会 収支予算

（平成25年1月1日～平成25年12月31日）

収 入 の 部　　単位 ： 円

科　目	24年度決算額	25年度予算額	比較増減	備　考
前期繰越金	0	0	0	
年 会 費	483,000	510,000	27,000	170名×3.000円＝510,000円
総 会 費	0	880,000	880,000	110名×8.000円＝880,000円
寄 付 金	0	100,000	100,000	
広 告 費	159,000	200,000	41,000	
借 入 金	32,189	0	▲ 32,189	
雑 収 入	13,993	150	▲ 13,843	受取利子
事 業 費	322,200	0	▲ 322,200	
合　計	1,010,382	1,690,150	679,768	

支 出 の 部　　単位 ： 円

科　目	24年度決算額	25年度予算額	比較増減	備　考
総 会 費	46,830	1,100,000	1,053,170	110名×10.000円＝1,100,000円
広 告 費	42,000	42,000	0	年賀・暑中見舞い広告（山陰中央新報社）
通 信 費	94,538	95,000	462	案内状発送費等
印 刷 費	172,089	175,000	2,911	機関紙発行、案内状、会議資料
事 務 費	50,505	50,000	▲ 505	文具、コピー紙等
旅　費	34,920	70,000	35,080	松江市訪問（2回）
雑　費	33,590	35,000	1,410	松江市訪問手土産等
同好会助成費		30,000	30,000	ゴルフ同好会
払込料金負担	23,210	25,000	1,790	
借入金補填	118,930	32,189	▲ 86,741	
予 備 費	35,770	35,961	191	
事 業 費	358,000	0	▲ 358,000	
合　計	1,010,382	1,690,150	679,768	

平成２５年度　役員名簿

顧　　問		苅田運三郎（雑賀町）
会　　長		伊藤　征治（北堀町）
副　会　長		小川　龍朗（島根町）
副　会　長		有田　　嵩（宍道町）
幹　事　長		竹谷　　奨（八束町）
副 幹 事 長		井上　芳子（石橋町）
事 務 局 長（兼務）		竹谷　　奨（八束町）
副事務局長		内部　　茂（浜乃木）
常任幹事	（ゴルフ担当）	井上　隆吉（上東川津町）
常任幹事	（地域担当）	押田　良樹（大庭町）
常任幹事	（地域担当）	木村　恵吉（雑賀町）
常任幹事	（地域担当）	木村八重子（東本町）
常任幹事	（地域担当）	武田　貞雄（雑賀町）
常任幹事	（広報担当）	松本　耕司（上本荘町）
常任幹事	（地域担当）	渡辺　　悟（北田町）
監　　事		木幡　泰三（宍道町）
監　　事		井田　　満（雲南市）

近 畿 松 江 会 こ の 一 年

平成２４年８月～平成２５年８月まで

平成２４年

☆８月２９日（水）８月期　三水会

・松江市訪問報告

・会報第５号記事検討

☆９月１９日（水）９月期　三水会

・平成２４年度総会の持ち方について

・松江市立八束中学校２年生が天神橋３丁目「天三おかげ館」にて大阪商人の心得を受講し、２丁目及び３丁目、２箇所で八束（大根島）特産品（牡丹苗、浜ぼうふうの漬物）の販売と観光ＰＲするのを応援しました。

牡丹は手書きのメッセージが添えてあり、春には「咲いたよ」と写真入りのお便りが届いたそうです。

９月２６日（水）の山陰中央新報にその様子が紹介されました。

※今春、野球部が県大会で優勝し中国大会に出場しました。おめでとう！

☆９月２８日（金）

・第１回近畿松江会ゴルフ大会を開催

近畿島根県市町村人会親睦ゴルフ大会での成績が伸び悩む中、井上ゴルフ担当常任幹事の肝いりで近畿松江会ゴルフ大会を事業として年２回を目標に開催することとしました。於　太平洋クラブ六甲コース

優勝者　内部茂（浜乃木）

☆９月２９日（土）

・会報第５号　発行

☆１０月１７日（水）１０月期　三水会

・総会の取り組みほかについて協議しました。

・恒例となった「前進座初春公演」観劇募集について協議しました。

☆１１月１４日（水）

・第４０回近畿島根県市町村人会親睦ゴルフ大会に出場しました。今回こそは上位入賞をと参加しましたが・・・

☆１１月１８日（日）

・平成２４年度第７回近畿松江かい総会開催

今年度は近畿島根県人会創立５０周年記念大会が開催されましたので、イベント・懇親会は省略し議事審議だけの総会でしたが７４ 名の方に出席いただきました。出席者には松江市よりお贈りいただいた「しじみの旨煮」を全員にお持ち帰りいただきました。

県人会の方は５千人予定が１万３千人と大変な（いろいろな意味で）記念大会でした。

☆１２月７日（金）

・第１回近畿松江会ゴルフ大会を開催

於　太平洋クラブ六甲コース

優勝者　糸川孝一（北堀町）

☆１２月初旬

・平成２４年度の会費納入のお願いと行事予定を発送しました。

会員数は毎年増えていますが、皆さんお声掛けをよろしくお願いします。

平成２５年

☆１月１３日（金）　役員有志

・全国都道府県対抗女子駅伝島根県チーム激励会に参加し、激励金を贈呈しました。

☆１月１５日（日）随意

・全国都道府県対抗女子駅伝を京都西京極陸上競技場、沿道にて応援しました。

☆１月３日（火）～１４日（日）随意

・恒例となった劇団前進座初春公演「あかひげ」を観劇しました。

於　京都四条南座

☆２月８日（金）

・児童養護施設「双樹学院」支援金募集

☆２月２０日（水）２月期　三水会

・平成２４年度会計監査を実施しました。

・平成２５年度事業計画を確認しました。

☆３月８日（金）

・双樹学院へ平成２５年度第１回支援金を贈呈しました。

☆３月１５日（金）

・苅田会長、有田幹事長、井上常任幹事、竹谷事務局長で松江市を訪問

・今年度の総会のお願い

今回は松江市管理課より松江駅前地下駐車場の活用方法の提案要請があり、現地を視察しました。

提案については素案として「野菜工場」案を提示しました。

各方面へ提案依頼が出されているようですが将来的には松江駅の建替え等の計画もありそうで、すぐに活用へと動く体制ではないようです。

なお、松江市内で菜の花に似た「あすっこ」という野菜があることご存じですか。ご紹介しましょう。

☆３月２１日（水）３月期　三水会

・松江市訪問報告

・総会の持ち方ほかについて協議しました。

☆３月２６日（火）

・第３回近畿松江会ゴルフ大会開催

於　茨木国際ゴルフ倶楽部

このコースはゴールドシニア、レディースには距離的サービスＨも多く、JR 茨木駅からクラブバスが運行されています。

どうぞ、ご参加をお待ちしています

連絡　井上常任幹事　072－696－7334

☆４月１日（月）
・第８回近畿松江会総会・懇親会案内発送

☆４月１０日（水）
・第４１回近畿島根県市町村人会親睦ゴルフ大会に出場しました。
練習の甲斐があって初めて１０位以内、８位

☆４月１７日（水）４月期　三水会
・総会、懇親会資料検討
☆５月１５日（水）５月期　三水会
・総会、懇親会参加状況確認、資料決定

☆５月１５日（水）総会直前　三水会
・役割分担、タイムスケジュール等確認

☆６月２日（日）

第８回近畿松江会総会・懇親会開催

於　新阪急ホテル　２階　花の間

松江市より松浦市長様はじめ８名、島根県大阪事務所長糸原様はじめ関係市町村人会より７名、もちろん名誉会員　三林京子様をお迎えし、総勢９１名の方々にご参加いただきました。

今年度は表紙に写真を掲載していますが、松江城姉さま鉄炮隊（本間恵美子隊長以下３名）にご参加いただきご講演と実演の模様を映像で鑑賞いたしました。

松江市よりいつものことながら、「牡丹」と参加者全員へのお土産を頂戴しました。

何が当たるか?

プログラム最後は恒例の大抽選会、ご提供いただいた「牡丹」をはじめ、地ビール・干物・雲州人参粉末・はまぼうふう醤油漬等々、参加者総当たり。特別ゲストの露の慎悟さんの司会で大変盛り上がりました。

「ふるさと松江」大合唱

☆７月１７日（水）
・役員を退任されました和田亮介様、伊藤雅義様、澄川光成様をお迎えし「だんだん会」と称して、反省会とお別れ会を開きました。お三方ともお元気で、今後とも松江会の応援よろしくお願いします。

「だんだん」でした。

☆８月２５・２６日（日・月）
・帰松報告で紹介（P27）

寄稿集 “松江だんだん”

会報のニックネーム「松江だんだん」にちなみ、「松江に“だんだん”する」ページをつくりました。

わが町・わが村・・を「語る」内容でも、「思い出」でも、「思い」でもすべて可とし、今年も下記の方々に、謂わば町内代表としてご寄稿をいただきました。

皆で語り継ぐ企画ですから、町内リレー大会のように、次号はあなたにバトンがいくかもしれません。その節はよろしくタノンマスケンネ。

■上東川津町

「茅葺屋根のある上東川津の風景」

井上伸久

本庄街道（旧 431 号線）から嵩山の登山道につながる一本道を、緩やかに１キロほど上って峠を越え、小さな橋を渡ると視界が開けて真正面に嵩山があたかも膝の上に下組、中組、上組と長く伸びた集落を抱えるように出迎えてくれる。

さらに一本道を進んでいくと茅葺（麦わら）屋根の農家が点在していた。わが実家も中学生までは茅葺であったので、その生活スタイルも含め大変懐かしい思いがする。

どの家も、玄関の障子紙の引き戸をまたいで一歩踏み込むと、本物の土間、続いてその奥に炊事場があり、かまどや板の間の囲炉裏が目に入る。土間に続いて南側は居間と客間、北側に寝間というのが江戸時代から続く田の字型の一般的農家の間取りである。

これに覆いかぶさるように、茅葺屋根が真っ黒な丸太の梁と竹の母屋に藁縄で編み込まれ、急勾配の屋根裏づたいに煙が立ち上り棟からぬけていく自然換気方式である。この煙が茅葺を長持ちさせると聞いていた。

夏はたいへん涼しくて親戚がお盆詣りに来るときまって「涼しいねー」と言って昼寝を楽しんでいた。

反対に冬は隙間風だらけでとても寒く、家の中でも綿入りの袖なしを着込んで練炭炬燵に潜り込んでいた。

茅葺屋根の吹き替えは大変な仕事であった。どこの家も20年に1回ぐらいは葺き替えが必要だった。数年前から材料の麦藁を集め、隣組の協力をお願いする助け合いの作業で、顔がススで真っ黒になる重労働であった。

新しく葺き替えた茅葺屋根はアースカラーで実に美しく自然に溶け込んでいた。

昭和 30 年代後半頃から次第に資材不足（麦藁）や職人不足から修理もままならず、雨漏れや台風に耐えかねて建て替えがはじまった。

我が家も昭和 37 年に改築となり、水回りが便利になったり、自分の部屋があったりで嬉しかったが、未だにあの真っ黒な大黒柱やかまどと共に茅葺屋根が鮮明に思い出される。

遠足で嵩山に上る光景も遠い昔となったが、上東川津の茅葺屋根も見ることはなく、かわりに上下水道、バイパス道路など快適な町となってこの盆休みも迎えてくれる。

■北田町（嵩見丁）

「我が町北田町嵩見丁」

渡辺　悟

現在の実家は松江市一の谷。南高の近くです。ここに引っ越して 40 年になりますが、10 年ほど前母が亡くなって空き家になり、空気を通すのは年に２、３回。うち１回、お盆休みは東京に住む四つ違いの兄の帰省と重なります。

その兄が数年前から帰省のつれづれに地図作成

を始めました。何の地図かというと、一の谷に引っ越す前の、我々兄弟が高校を卒業して家を出るまで暮らした橋北の町、「松江市北田町嵩見丁（だけみちょう）周辺住宅マップ」です。

テラモトさん、フジタさん、ミタニさん、アライさん、トガさん、イケタニさん、アシダさん、イシカワさん……。向こう３軒両隣から始め、最初は楽勝だったのが家を離れるにつれて記憶は曖昧模糊とし、住宅の位置や路地の場所も怪しくなり、作成は容易ではありません。

現地に行けばいいようなものですが、米子町から石橋町まで「大輪町通り」が南北にズドンと通って周辺の変わりようはとりわけ激しく、代替わりして住み続けている家はほとんどありません。グーグルマップで見ると、横文字のマンションンが点在し、嵩見丁の少し東に母衣小学校が移転していたのには驚きました。「え、いつの間に？！」。往時茫々有為転変。頼りは記憶のみというわけです。

そんなことをして何の得になるのか、何の役に立つのか、という本質的な疑問はさておいて、兄の背中を押すのは「忘却の彼方に消え去った生家」へのノスタルジーと銘酒豊の秋の酔い。

「この横丁の先、アシダさんの向かい側だけど何という家だったっけ」「この先に小さな川があっただろう。覚えてる？」

永遠に未完成でしょうが、盆休みの帰省で見るたびに空白が埋まり、進化していることは確かです。兄の横に陣取り、酔眼で覗くマップには混じりっ気なしの「昭和 30 年代」が永久凍土で眠るマンモスのように封印されています。

いまは亡き祖父母、父母、姉、叔母たち。家を出れば雲霞のごとき子どもたち。サブちゃん、ヒサちゃん、ススムちゃん、ノボルちゃん、チュウちゃん、ターちゃん、マーちゃん、ミキちゃん、レイコちゃん……。

５、６歳から 15、６歳までの子どもたちが混然一体となって遊び呆けた嵩見丁。農耕用牛馬の糞がよく落ちていて、年長者から「牛の糞を踏んだら足が遅くなるけんな。馬はいいけど」と忠告され、幼稚園児だった私はその深い英知に感心したものです。牛馬の姿が消え、クロガネのオート三輪に替わってミゼットが走り始めると通りから子どもの姿が一人また一人消えていきました。

松江城のほぼ真東にある名刹普門院。その前を通って東に向かうと大輪町通り。交差点を渡ってから左、石橋町方面に歩く。最初の角が嵩見丁の入り口です。

■宍道町

「宍道&松江　あんな事こんな事」

小高久始

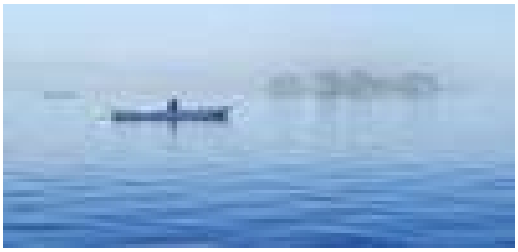
松江会副会長の有田氏より、機関誌「だんだん」に掲載するので何か原稿をと依頼され、昭和 19 年～27 年、小学校 5 年より高校卒業まで御世話になった松江市また宍道町の思い出を寄せてみました。

私は島根県そのものに全く縁のない人間でした。戦時中の大阪から疎開先を選ぶのに父の友人が先に島根に疎開していて、是非こちらに来いということだけで宍道町にやって来たらしいです。それが昭和 19 年の秋、大阪しか知らない小学 5 年の少年にとっては今浦島の状態です。

出雲弁が分からない、顔見知りは一人も居ない、初めての冬は寒くて辛かった、親戚も無いのだから食料も少なく、いつも空きっ腹を抱えていた。

でも、宍道は人も自然も優しかった。皆が助けてくれたし、少年期の私には環境に馴染むのは早かった。

一年経てば出雲弁も喋れた、友達も一杯、冬も手作りの竹スキーで遊び、畠を耕し食料の自給自足、出雲の自然の中で育ち、木々の名前、田畑の作物の知識、宍道湖で早朝の海老掬い、魚釣り、泳ぎ etc、etc、都会育ちで体験できない事、それが今、非常に役立っております。宍道中学校卒業まで、すっかり宍道の子供として仲間に入れてもらいました。



「松江の朝は大橋を渡る下駄の音で始まる」、これは小泉八雲の「神々の国の首都」と言う作品の冒頭の文章だったと思います。

私が松江商業高校一年の昭和 25 年頃は、スニーカなど無く、学生の多くは白くて太い鼻緒の高下駄で街を、大橋を闊歩しており、この文章の雰囲気そのものでした。

そんな松江の石橋町にまず姉が嫁ぎました。そして私が松江商業高校に 3 年間の宍道・松江間の汽車通学を始めました。松江に縁ができたのです。

汽車通学は片道 40 分ぐらい、朝は乗る車両を各自で決めております。他高の女子生徒ですが誰それさんは何輌目とか情報は知っていても、男女共学にも不慣れ、女性と話すことなどできません。でも、米子から来る学生からは、高校時代の女優の司葉子さん、凄く綺麗なお姫さんの噂が流れて来たりして、汽車通学は結構楽しかった。

勉強の方ですが、同じ高校一年生と言っても、旧制中学からそのまま上がってきた者と、新制中学から入った者とが一緒で学力差が有り過ぎて、果たして皆についていけるのか心配でした。追いつくまでは懸命に勉強しました。

放課後はどこへ行ったかな？　当時は映画全盛時代、市内にも映画館が 5 館ぐらいあり、よく見に行きました。あと、京店をブラリ、今井の本屋で立ち読み、腹が減れば松江駅前の一文字屋でコッペパンとお茶、安上がりでした。

皆、貧しかったけど、平和がもどり国民みんなが国の復興に希望が持てた。そんな時代を松江で、宍道で過ごし、友達を一杯、よき思い出を一杯持てたこと・・・。戦争は全てを破壊するが、半面新しい出会いの場も生まれる。疎開という異常な出来事の中で、宍道と松江で過ごした約 9 年間は本当に貴重なものです。宍道・松江は私にとってかけがえのない故郷です。

最後に、宍道の小学校、松江商業 51 期の同窓会いずれも世話役の高齢化で終了。松江を訪れる機会が減って残念です。

「神々の　言葉だんだん　松江会」

■末次本町（京店）

「ふるさと　松江」

三成宏二

終戦の年に京店で生まれ、京店商店街・宍道湖岸・城山で遊び育ちました。

宍道湖岸・京店商店街・殿町かいわいの風景と市街地の様子は大きく変わり、昔の面影が少くなってしまいましたが、その頃の様子を思い出してみたいと思います。

お盆の前は早朝より花屋などの露店が、京店から東本町にまでずらっと並び、沢山の人でにぎわっていました。家族と出かけホオズキなどを買ってもらい、風船を作って遊んだ思い出があります。

現在の松江市役所の辺りに競輪場があり、昭和 25～28 年まで競輪が開催されていました。 競輪開催中の様子は幼かった為、記憶はないのですが、なぜか競輪帰りのおじさんにソバをごちそうしてもらったことだけは覚えています。　競輪場は昭和 31 年に撤去され松江温泉の浚渫埋立があり現在に至っていますが、施設撤去前の斜面のコースをお尻にワラを敷いて滑り降りたり、転がったりして遊んだことを楽しく思い出します。手足に擦り傷を作って、よく母に叱られました。当時宍道湖は、水泳が禁止されていなかったので近所の友達と泳いだり、大橋北詰で、タモでエビ採りをしたり、ハゼ釣りをしたりして暗くなるまで遊びました。

松江大橋より西に目を向けると、出雲の方から繋がって来ている夕陽の光が波に乗って湖面をキラキラと輝く夕景にはいつも癒されました。　東に目を向けると、大橋川を真ん中にして、右は大山（伯耆富士）、左は和久羅山から嵩山へと山々が

連なり、ゆったりとした緑の夏と、雪屏風のような冬の景色がすばらしく、常に心に焼き付いています。

城山もまた思い出多い場所です。

城内の馬場池から椿谷の森の中で胡桃取りをしてその数の多さを競ったり、杉花粉にまみれて杉の実を取り竹筒につめて杉鉄砲を作り打ち合って遊びました。

昭和３１年に県庁が全焼しました。

京店の家の物干し台より、ものすごい炎がすぐ近くに見え、たいへんな明るさで、怖くてブルブル震えたことを今でも思い出します。その後県庁の建替工事が始まり、付属小学校の隣りの大手前広場の半分位が工事用砂利の置き場となりました。これがまた絶好の遊び場となり、砂利山を上り下りして夢中になって遊んだ覚えがあります。

昭和38年の所謂38豪雪もすごく記憶に残っています。約100年ぶりの豪雪といわれ、宍道湖の東半分が凍結しました。家が宍道湖のすぐ近くで、夕方湖を見に行くと、ハスの葉くらいの大きさの

【朝の宍道湖のしじみ漁】

氷が沢山浮き漂っていました。翌朝６時頃見に行くと、目の前は真っ白な氷原になっており、驚くよりも嫁が島を越えて広がる白い景色に感動したことを鮮明に覚えています。

松江は大橋川に架かる橋が２本（松江大橋・新松江大橋）から６本（宍道湖大橋・松江大橋・新松江大橋・くにびき大橋・えんむすび大橋・中海大橋）になり、市街地の様子も随分変わりましたが、帰省する度に湖や山などの変わらない悠久の景色に癒されています。この景色と思い出を大事にして、今後も過して行きたいと思っています。

■西持田町

「わが故郷を語る」

鶴羽孝子（旧姓：石橋）

松江市街地から美保関方面へ向かい、島根大学を過ぎたあたりに西持田町がある。加賀へ通じる幹線道路ができてから交通事情がよくなり、島大に近い地域は新しい住宅や店舗ができてにぎやかになったが、少し奥へ入れば昔と変わらぬ山と田園が広がる「田舎」である。

西持田町には、和田・亀尾・日吉・小倉の四つの集落があり、私の実家がある「亀尾」に「持田神社」がある。別名「丸山神社」ともいう。昔はこの神社が子供たちの溜まり場のようになっていて、毎日のようにここで遊んだものだ。また、境内にある社務所では農繁期に「保育所」が開設され、物心のつかない頃から通ったように思う。この神社は子供の頃の思い出が凝縮されている場所だ。

【持田神社】

娯楽のないあの当時、「持田神社」の「春祭り」はいちばんの楽しみだった。たくさんの露店が出て、家々には親戚が集まり、とても盛大なものだった。そして、夜の「能舞」がこの祭りのメインイベントだった。お神楽に合わせて、近所の「おっつぁん」たちが「神能」を舞うのだ。日頃土にまみれて農作業をしている「おっつぁん」たちが、この日はとてもかっこよく見えた。社のご神体が祭ってある手前の畳の広間で能が舞われ、地域の住人や親戚が総出で見物するのだが、畳の広間に上がり込み、目の前で

「能舞」を観るのが醍醐味だった。いちばん人気の演目は、「鬼」が出てくる「オロチ退治」と「三韓征伐」だった。その鬼たちににらまれたり、倒れこんできたりするのが、怖くもありおもしろくもあり、ワクワクして夢中になって観たものだった。

この「亀尾神能」は江戸時代に始まったものらしいが、ユネスコ無形文化遺産に登録された「佐陀神能」と同じ形式である。昔は各地域で神能が舞われていたようだが、後継者がなく姿を消すなか、「亀尾神能」だけは保存会ができ、あの「おっつぁん」たちの息子世代が受け継いでいる。祭りの他にもさまざまな催しで舞われており、5 年前に近畿松江会でも披露させていただいた。

帰郷して持田神社を訪れると、もうそこに子供たちの遊ぶ姿はないが、昔と変わらぬお社が静かに迎えてくれる。そして、にぎやかだった春祭りの光景が目に浮かび、ドンドドンドン、ピーヒャララ・・と、お神楽の音(ね)が聞こえてきそうな気がするのだ。

【亀尾神能】

■枕木町（本庄）

「ふるさとは今もかわらず」

木島光子

「ふるさとは今もかわらず」という新沼謙治さんの歌をご存じでしょうか？　大切なふるさと・友達の事を思い作られた歌だそうです。

私はこの歌を聞いていると、枕木山と中海に囲まれた本庄町で過ごした子供の頃を懐かしく思い出します。

枕木山に登る麓にある実家は、小学校・中学校・バス停に行くのに子供の足で 30～40 分かかりました。高校時代の恩師は「お前さんの家からは飛行機の背中が見えるんじゃないかな～」と冗談を言ったくらい海抜の高いところです。

【枕木山・華蔵寺】

通学途中には、梅を取って食べ「赤痢になるぞ」と怒られたり、畑の柿を取ったり、川に入り魚を捕まえたり…危ないことばかりしていました。勉強はあまり好きではありませんでしたが、学校の行きかえりの友達との遊びは楽しかったです。

今ではどの家にも車があり、本庄から松江市内まではすぐですが、私達が子供の頃は本庄のバス停から 30 分程かけてやっと殿町の一畑デパートに到着でした。

本庄の田舎から一畑デパートに買い物に行くのに家族みんなが綺麗な服を着てワクワクしながら歩き、レストランに入るだけでもドキドキしたように覚えています。今の松江の子供たちはどんな所でドキドキ、ワクワクしているのでしょうね。

子供の頃に 30～40 分かけて学校に通った事、田畑を走り回りいたずらをして遊んだ事で強い体ができ、その後高校・大学、そして指導者として陸上競技に関わってきたのも本庄での生活で足腰を鍛えたおかげだと思っています。60 歳後半の今でも山登りやジョギングができる体力は自慢です。

現在、私が住んでいるのは琵琶湖があり比叡山のある滋賀県大津市です。規模は小さいですが、宍道湖（中海）があり枕木山のある松江市本庄の環境と似ていると思いませんか？　終のすみかに大津を選んだのも心の奥底に大好きな松江があったのだと思います

最近の私は、松江の友達よりお誘いがあれば家庭の事情が許す限り参加するようにしています。先輩・友達・幼なじみ等とふるさとのことをおしゃべりできるのは本当に嬉しく楽しい時間です。いつまでも大切にしたいと思っています。
｛ふるさと、松江｝はいいところです。

■美保関町

「三保神社」

花本　博

私の郷里は、島根県松江市美保関町福浦で、郷里の神社は、美保関町美保関のみほ(美保）神社と、字は異なるが同名のみほ（三保）神社です。

【美保神社】

両神社の歴史は古く、出雲風土記に美保ヶ埼に同名の二つの大きな神社があると記されているそうです。両神社とも事代主尊（ことしろのぬしのみこと）を祀っています。事代主は、大国主の子供で、美保ヶ埼で漁をしていました。　別名恵比寿と言い、海の神様として祀られています。

事代主は、三保神社のあった郷里・福浦に住み、美保神社のある美保関の海を漁場とし、福浦から約３ｋｍ西で、境港の対岸になる美保関町森山字宇井にある網場神社の辺りで網を干したという。

郷里では、事代主の本殿は、美保神社ではなく三保神社であったと主張するが、現在では、美保神社は全国的に知られ有名であるが三保神社は無名である。

その理由は戦国時代尼子毛利の戦いで兵火により焼失したためである。

永禄９年（1566）11 月、月山富田城は開城して山陰の名門尼子氏は滅亡し、遺臣らは諸国に流浪した。なかでも山中鹿之助等は、ひそかに尼子再興を夢見ていた。

その機会は、案外早くおとずれた。毛利元就は、豊後大友宗麟との戦いで兵力を北九州に動員し、出雲は空白になっていたからです。

山中鹿之助等は、京都東福寺に僧となっていた尼子誠久の遺子を還俗させ、尼子孫四郎勝久と名乗らせて主君に迎えたと同時に、大友宗麟と手をにぎり、永禄 12 年（1569）京都を出発した。山中鹿之助等は、島根半島に押し寄せ、数度の戦いの末、美保関町千酌と北浦の境界にある標高 290m の忠山の砦に本営をおいたのが、6 月 23 日であった。

山中鹿之助は善戦し、石見進撃を考えていたところ、尼子の再興に力を寄せていた隠岐守為清が、恩賞のことから変心した。当時、美保関に居た隠岐守為清は、毛利方についていた富田城の天野と心を通じ美保関で民家に火を放ち騒動をおこした。

この時、焼かれた民家は、当時福浦と言わず元倉と呼ばれていた我が郷里であったようである。

雲伯国境にいた鹿之助等は、とり急ぎ美保関に敵前上陸した、幾度かの戦い後、為清は負け責任をとって切腹した。鹿之助は、戦いの最中、三保神社の石段に太刀を打ち付け二つに折るアクシデントがあったという。

福浦は昔、元倉千軒と言われ、多くの家が建ち並んでいたが、もともと過密状態に有り、兵火で部落が焼失すると、当時の弓ヶ浜半島は比較的過疎地で土地に余力があったため、元倉住民の多くが、弓ヶ浜に移り住んだという。

福浦地区は、西から大福浦、小福浦、元倉、宮の谷の四つ地区からなっている。かって福浦が元倉と呼ばれていたのは、元倉が村の中心であった為で、現在大福浦にある三保神社は、かっては宮の谷にあったと思われる。

■八束町

「オラがふるさと大根島」

門脇幸夫

四方海に囲まれ、晴れた日に枕木山から望む大根島は背景に大山が見え、まさに絶景である。子どもの頃、中海は魚貝類の宝庫であった。アサリ、カキ、ウナギ、車エビ等々。特に赤貝は身が柔らかくとても美味しかったのを覚えている。釣りで面白いのはエノハ、アジ、メバル。秋になると宍道湖から中海を下って日本海に出て行くスズキ。これを狙って船からルアーを引っ張って行くと一メートル級が釣れる。この醍醐味は忘れられない。

これらの魚貝類が水質の悪化で激減した今、下水道の整備、堤防の撤去開削で良い方に向かうだろうと期待するところだ。私は願っている。「よみがえれ、中海」

さて、農産物と言えば島の特産品の代表格、花の王様「牡丹」だ。年中咲かす技術を完成させ、「花の島大根島」を大いにアピールしている。ゴールデンウィークには沢山の観光客で賑わい、満開の牡丹が和ませてくれる。

牡丹が東の横綱とすれば西の横綱は「薬用人参」である。

島の一番高い大塚山から島中を見降ろすと子供の頃には、多くの人参畑があったものだが、今ではほんの僅かとなってしまった。連作が出来ない、収穫に年数を要する、円高など要因は様々であろうが、漢方として素晴らしい効能を持ち、江戸時代から生産されて来た島の自慢の一つが無くなって行くのは非常に残念に思う。

【大塚山のグリーンステラ】

島の自慢は「人」でもある。義理人情が厚く、家の前を通ると「たばこしたら」とか、「茶飲まっしゃい」とか気さくに声をかけてくれる。野菜も大根島と言われる由縁。沢山の収穫があり、帰省し、大阪に帰ってくる際は車がいつも満載になるほどいただいている。「また戻ってごだっしゃいね」といつも歓迎して貰い感謝、感謝である。

子供の数もかなり少なくなったと聞く。今は松江市のモデル校としての小中一貫校「八束学園」の同じ校舎で勉学に励んでいるとの事だが、子供は元気の源、もっともっと生徒数が増えることを願っている。

最後に、両親は既に他界したが、島はいつまでも「オラがふるさと」である。中海圏の「へそ」として大いに発展して欲しい。みんなが「まめ」で大いに活躍して欲しいと常々祈念している。

※沢山のご寄稿有難うございました。

近畿松江会では随時、わが町・わが故郷を募集しています。
「文字数」「表現」を気にせず自慢したいこと、懐かしい話思い出の場所・風景など。手書き原稿、メール、ワード、なんでも結構ですお寄せ下さい。

松 江 市 か ら の お 願 い

まつえ産業支援センターの開設と、ものづくりアドバイスなど産業振興に関するお願い

報告　常任幹事　松本耕司

松江市では、製造業のまち「東出雲町」との合併を機に、これからのまちづくりに取り組むに当たり観光と並ぶ柱として「ものづくり産業」を位置づけ、雇用の創出・定住の推進につなげていくこととして、平成 24 年 10 月に「松江市ものづくりアクションプラン」を策定され、さらに本年 6 月 1 日付けで産業観光部組織下に「まつえ産業支援センター」を新設され、北陵町の「テクノアークしまね」内にオープンされました。

【まつえ産業支援センターの事業】

①製造業の振興　②ソフト系情報産業の振興　③起業及び創業支援　④ものづくりの産官学連携・広域連携　⑤農水商工連携事業推進　⑥伝統産業振興　⑦海外貿易振興

その中で、松江市から近畿松江会に対し、市として「ものづくりアドバイザー」の設置を検討中であり、現実に松江でご勤務いただける方の紹介を含め、下記のような観点での協力をいただけないかという要請がありました。

【例】（1）市内企業訪問等による要素技術、地元素材の情報収集、データベース化
（2）中海・宍道湖・大山圏域内での受発注関係構築の企業間コーディネート
（3）山陽方面（尾道・三原・広島）の企業情報源の訪問、情報収集、ビジネスマッチング
（4）圏域外企業（首都圏・関西圏・中京圏）と市内企業のビジネスマッチング
（5）企業ニーズ・課題を把握し、各種支援機関の施策との結びつけ
（6）企業と大学生等の交流・連携支援
（7）企業間、IT・農水商工・産学連携の支援

この要請は、大変大きく難しい課題であると受け止めましたので、早速、伊藤征治会長、松本耕司常任幹事が同センターを訪問、藤原亮彦センター長と懇談して、まずは、「ものづくり」に限らず上記のすべての分野で、松江にゆかりのある諸先輩方から、松江市の産業振興に関することであれば何でも幅広く情報の提供、人脈の紹介などをいただければ有難い、との意見交換をし、そこからスタートをすることで意見の一致をみました。写真は「農水商工　手を取り合って　つくる」のパンフレットの一部ですが、これについては随分進捗している印象を受けました。

近畿松江会では、まだこの要請に具体的にどう応えていくかは決めていませんが、冒頭の伊藤会長のご挨拶のとおり、郷土の発展に資するため、今後真剣に考えていかなければならないと考えていますので、まずは会員の皆様に現状をご報告いたします。

■この件に関してのご意見、お問い合わせ先■

近畿松江会幹事長　竹谷　奨(090-3054-9159)　常任幹事　松本耕司(090-6609-8817)

松江産業支援センター長　藤原亮彦(0852-60-7101　misc@city.matsue.lg.jp)

帰　松　報　告

平成 25 年 8 月 25・26 日

報告：幹事長　竹谷　奨

例年、１０月に年度総会のお礼と来年度の構想をもって帰松していましたが、今年度は第３回目となる「だんだん夏踊り」が２５日に開催されることのことで、これは一度観て皆さんにご報告しようとの思い、また今年度の役員改選のご挨拶を兼ね、伊藤会長、苅田顧問と共に繰り上げて帰って来ました。

だんだん夏踊りの会場は第１回、２回と京みせカラコロ広場付近で開催されていたようですが、今年度は京店カラコロ広場・松江大橋・白潟本町・天神町と商店街を取り込み地域密着とでも言いましょうか４箇所を踊り歩くと言った企画で午前中の大雨も晴れ、宍道湖をめぐるさわやかな風の中、藤原秘書課長のご案内で見学させていただきました。

松江大橋での開会式には松江市観光キャラクター「あっぱれくん」も参上。

踊りは第１部自由曲の部（プロのダンサーチーム・幼稚園、小学生チームなど２５チーム）、第２部松江夜曲の部（各公民館所属チーム・合銀チーム・山陰中央新聞チームなど）中でも市役所チームは揃いのゆかた、足袋で市長様を先頭に、見学者から声がかかるほど息のあった踊りを披露されました。

いつか「近畿松江会チーム」の参加をと会長、顧問と一緒に夢を抱きながら楽しい時間を過ごしました。

【市役所チーム（先頭は松浦市長）】

２６日はお忙しい中、お時間をいただき市長様と面談。観光協会、商工会議所を訪問。

観光協会から、来年は観光コースを提案したいので是非、ふるさと訪問ツアーの企画を計画して欲しいとのお声かけをいただきました。

また、帰りの時間を気にしながらではありましたが、「双樹学院」を訪問し、今年度２回目の寄付をさせていただきました。昨年訪問の際はあいにく初めてで緊張しましたが意図をご理解いただけず戸惑いましたが、今回は笑顔で対応していただきました。

さて、松江市には原発があるのをご存じでしょうか。中国電力鹿島発電所です。松江市役所ロビーで余り見かけないモニターを発見。秒単位で半径５キロメモリにて測地点毎に放射能測定記録が映し出されていました。

会　員　名　簿　（中・小学校区別）

平成25年9月現在

①”ふるさと”に密着した「会員名簿」とするため、中・小学校区（通学区域）と、皆様から申告いただいている「出身町」をあてはめて作成しました。
②不具合い、間違いがあります場合は、事務局までご一報いただければ幸いです。
⇒（注）島根大学付属小（中）学校は、この表には記載していません。

校区／出身町	通学区域・町名／会員氏名
【一中校区】	
生馬小	（上佐陀町一部、下佐陀町、西生馬町、東生馬町、薦津町、浜佐田町一部）
内中原小	（殿町一部、西茶町、東茶町、苧町、中原町、片原町、外中原町、内中原町、末次町、堂形町、砂子町、国屋町、黒田町一部、浜佐田町一部、千鳥町、南平台）
城北小	（北堀町、奥谷町、東奥谷町、石橋町、大輪町、淞北台、法吉町一部、春日町一部、黒田町一部、菅田町一部）
法吉小	（比津町、比津が丘、法吉町一部、西法吉町、春日町一部、黒田町一部）
＜石橋町＞	井上 芳子（高槻市）　清水　良子（茨木市）　田村　稔久（豊中市）
	永井 ひろし（京都市）
＜内中原町＞	千葉 新一（池田市）
＜奥谷町＞	杉原　伸治（松江市）
＜片原町＞	土田 和男（大阪市）　村上 勝美（三島郡島本町）
＜北殿町＞	三島 薫（生駒市）
＜北堀町＞	伊藤 征治（奈良市）　平山 武秀（箕面市）　山口 茂（京都市）
	糸川 孝一（松江市）
＜黒田町＞	森脇 美紗子（豊中市）
＜淞北台＞	山田 敬子（吹田市）
＜外中原町＞	池田 康郎（宝塚市）　四方田 司（明石市）
＜殿町＞	飯塚 満男（茨木市）
＜堂形町＞	小田 一美（奈良市）
＜中原町＞	佐々木 悦子（吹田市）　佐藤 栄治（西宮市）　宍道 弘志（吹田市）
＜東生馬町＞	青戸 哲哉(松江市)　青戸 俊夫(神戸市)　藤原 敬(松江市)
＜東奥谷町＞	宮廻 光則（尼崎市）
＜東茶町＞	井原 和彦（尼崎市）
＜法吉町＞	由木 文彦（東京都）　景山 克雄（八尾市）
【二中校区】	
朝酌小	（西尾町、朝酌町、福富町、大井町、大海崎町）
川津小	（菅田町一部、西川津町一部、上東川津町、下東川津町）
母衣小	（末次本町、東本町、殿町一部、母衣町、北出町、南出町、米子町、向島町、西川津町一部、学園南、学園）
持田小	（福原町、坂本町、川原町、東持田町、西持田町、上本庄町一部）
＜上東川津町＞	井上 隆吉（高槻市）　井上 伸久（高槻市）
＜北田町＞	渡辺　悟(吹田市)　大浦 綾子（西宮市）
＜末次本町＞	山田 稔（富田林市）　三成 宏二（木津川市）
＜西尾町＞	篠木 豊（大阪市）
＜西持田町＞	鶴羽 孝子（川西市）
＜東本町＞	木村 八重子（八尾市）　永江 幹雄（神戸市）　一軸保志郎（堺市）
＜母衣町＞	川角 十四枝（高槻市）　大野 賢造（川西市）
＜南田町＞	松井 恵(京都市)　山﨑 杲（西宮市）

校区／出身町	通学区域・町名／会員氏名
【三中校区】	
雑賀小	（栄町、新町、松尾町、雑賀町、堅町、本郷町、西津田一部、上乃木一部）
中央小	（天神町、白潟本町、灘町、魚町、八軒屋町、和多見町、寺町、横浜町、幸町、袖師町、嫁島町、伊勢宮町、御手船場町、大正町、新雑賀町、東朝日町、朝日町、津田町、西津田一部、西川津町一部）
	○平成7年4月1日　白潟小学校　＋　朝日小学校　⇒　中央小学校
＜朝日町＞	
＜伊勢宮町＞	竹谷 曜子（大阪市）　宮内 玲子（大阪市）
＜雑賀町＞	足羽 俊子（西宮市）　奥村 伸子（豊中市）　小原 弘幸（枚方市）
	苅田 運三郎（明石市）　木村　恵吉（吹田市）　篠﨑 一浩（神戸市）
	澄川 光成（河内長野市）　武田 和子（宝塚市）
	福間 則博（宝塚市）　江角 要 一（大阪市）　武田 貞雄（堺市）
＜白潟本町＞	
＜新町＞	中村 博行（名張市）
＜新雑賀町＞	鳥谷 芳男（高槻市）　永井 彰（大津市）　仁宮 龍聖（高石市）
＜大正町＞	赤井 真一郎（大阪市）　望月 修一（豊中市）
＜堅町＞	茂居理智子（堺市）　竹内喜次男（高槻市）　佐藤早智子（茨木市）
＜天神町＞	
＜灘町＞	長谷川 忠雄（奈良県北葛城郡）
＜東朝日町＞	菊池 尅雉（神戸市）
＜本郷町＞	
＜横浜町＞	苅田 京子（松江市）岡本 由美（伊丹市）
【四中校区】	
古志原小	（古志原一部、八雲台、上乃木一部、一の谷町）
津田小	（東津田町、古志原一部、西津田一部）
【湖南中校区】	○昭和50年4月1日　新設
忌部小	（西忌部町、東忌部町、玉湯町一部）
乃木小	（上乃木一部、浜乃木町、浜乃木、乃白町、乃木福富町、田和山町、西嫁島）
＜上乃木＞	神谷 紀男（堺市）　掃部 恵子（枚方市）　諏訪 秀富（茨木市）
	諏訪 宏（大阪市）　田中 英明（交野市）　森廣 洋子（松江市）
	坂本 隆男（大津市）
＜古志原町＞	曽田 良子（奈良市）　三代 知範(神戸市)　平山 恭子（大阪市）
＜西津田＞	達山 暢（松江市）
＜浜乃木＞	内部 茂（茨木市）　苅田 莞爾（松江市）　村上 裕司（西宮市）
＜東津田町＞	宮本 立史（松江市）
【湖東中校区】	○平成5年4月1日 新設
大庭小	（大庭町、山代町、古志原一部、佐草町、大草町、矢田町一部）
竹矢小	（矢田町一部、青葉台、竹矢町、馬潟町、八幡町、富士見町）
＜大庭町＞	押田 良樹（吹田市）
＜馬潟町＞	松尾 年浩（高槻市）
＜山代町＞	
＜八幡町＞	大野 徹（奈良市）

校区／出身町	通学区域・町名／会員氏名
【鹿島中校区】 鹿島東小 鹿島町（御津、上講武、南講武、北講武、名分一部） 惠曇小 鹿島町（惠曇、手結、片句、佐陀本郷一部、武代一部、古浦一部） 佐太小 鹿島町（佐陀宮内一部、佐陀本郷一部、武代一部、古浦一部、名分一部）	
＜鹿島町＞	宇藤 二男丸（和泉市） 坂井 茂子（亀岡市） 山本 雅昭（大阪市）
【湖北中校区】	○平成6年4月1日 古江中学校 ＋ 秋鹿中学校 ＋ 大野中学校 ⇒ 湖北中学校
秋鹿小（秋鹿町、岡本町、大垣町）	
	○平成22年4月1日 中島小学校 ＋ 秋鹿小学校 ⇒ 秋鹿小学校
大野小（大野町、上大野町、魚瀬町） 長江小（東長江町、西長江町） 古江小（古曽志町、西谷町、古志町、荘成町、西浜佐陀町、上佐陀町一部）	
	○平成23年4月1日 長江小学校 ＋ 古江小学校 ⇒ 古江小学校
＜秋鹿町＞ ＜東長江町＞	和田 寛（河内長野市）
【島根中校区】	○平成16年4月1日 島根中学校 ＋ 野波中学校 ⇒ 島根中学校
島根小（島根町）	
	○平成17年4月1日 大芦小学校＋加賀小学校＋野波小学校 ⇒ 島根小学校
＜島根町＞	小川 龍朗（京都市） 小川 勉（柏原市） 客野 伸（神戸市） 藤城 坦（神戸市）
【宍道中校区】 大谷小 宍道町（上来待和名佐地区） 来待小 宍道町（東来待、西来待、上来待） 宍道小 宍道町（宍道、伊志見、白石、佐々布、昭和）	
＜宍道町＞	有田 嵩（寝屋川市） 池尻 和子（東大阪市） 伊藤 雅義（京都市） 太田 厚（加古川市） 小田 兼久（豊中市） 川島 俊雄（川西市） 木原 貢（豊中市） 小高 久始（堺市） 木幡 泰三（寝屋川市） 木幡 晃正（篠山市） 皐月 禧暉（宝塚市） 高木 征次（交野市） 武田 精（八尾市） 田中 晨子（枚方市） 土江 安雄（堺市） 飛田 藤夫（大阪市） 永原 忠巳（茨木市） 光田 仁一（奈良市） 渡部 勇（宝塚市） 渡部 恵美子（宝塚市） 和田 亮介（豊中市） 古川 高志（名張市）
【玉湯中校区】 大谷小 玉湯町（大谷一部） 玉湯小 玉湯町（布志名、湯町、林、玉造一部、大谷一部）	
＜玉湯町＞	長谷川 紀美子（奈良県北葛城郡） 岡本 幾三（伊丹市）
【本庄中校区】 本庄小（手角町、長海町、野原町、枕木町、邑生町、新庄町、上宇部尾町、本庄町、上本庄町一部）	
＜邑生町＞ ＜上宇部尾町＞	内田 美二（伊丹市）
＜上本庄町＞	松本 育郎（堺市） 松本 耕司（枚方市） 松本明夫（伊丹市）
＜新庄町＞	寺前 澄子（高槻市）
＜手角町＞	北林 栄（堺市）
＜本庄町＞	面白 紘（橿原市） 坪倉 司郎（川西市） 山内 和美（吹田市） 三代 雅樹（加古川市） 田部拓生（奈良市）
＜枕木町＞	木島 光子（大津市）

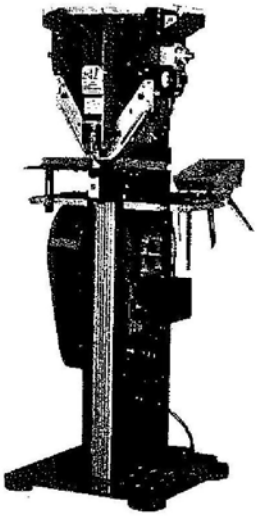
校区／出身町	通学区域・町名／会員氏名
【美保関中校区】	○平成7年4月1日　美保関北中学校　＋　美保関南中学校　⇒　美保関中学校
美保関小（美保関町）	
	○平成13年4月1日　美保関小学校＋森山小学校＋福浦小学校⇒美保関東小学校 ○平成13年4月1日　七類小学校＋片江小学校⇒美保関北小学校 ○平成18年4月1日　美保関東小学校＋千酌小学校＋美保関北小学校⇒美保関小学校
＜美保関町＞	愛田 幾也（神戸市）　梅木 隆志（大阪市）　花本 博（城陽市）
【八雲中校区】	
八雲小（八雲町）	
＜八雲町＞	石倉 文行（豊中市）　藤田 宏（堺市）　藪田 とし江（大阪市）
【八束学園校区】	○平成23年1月1日　小中一貫教育校として発足
八束学園（八束町）	
＜八束町＞	岩田 太（神戸市）　門脇 基（茨木市）　門脇 幸夫（大阪市） 川原 ひろ子（豊中市）河野 宗子（草津市）　高瀬 保子（豊能町） 高橋 小梅（東大阪市）　竹谷 獎（大阪市）　坪山 孝美（宝塚市） 福屋 篤子（豊中市）　松本 悟（大東市）
【東出雲中校区】	○平成23年8月1日　八束郡から松江市に合併
出雲郷小（出雲郷地区）	
揖屋小（揖屋地区）	
意東小（意東地区）	
＜東出雲町＞	桑原　隆（松江市）　萩野 貫悟（吹田市）

■【松江市外出身の会員】	
＜安来市＞	荒銀 昌治（西宮市）　石田 裕子（大阪市）　京嶋喜久子（松江市） 千葉 潮（吹田市）
＜出雲市＞	金山 富美（松江市）　杉谷 百合子（京都市）　竹内 一郎（大阪市） 鳥屋尾 勇（大阪市）　布野裕二（尼崎市）
＜雲南市＞	井田　満（大阪市）
＜温泉津町＞	林 邦幸（京都市）
＜浜田市＞	北島 幸子（豊中市）
＜益田市＞	尾原　司（神戸市）
＜京都市＞	小川 ますみ（京都市）
＜明石市＞	小松 雅子（明石市）　藤原 浩子（三木市）
＜姫路市＞	山本 達郎（姫路市）
＜呉市＞	苅田 チエミ（明石市）
＜萩市＞	守田 宣昭（松原市）

■【名誉会員】	
＜大阪市＞	三林 京子（大阪市）

自動ホック打機　TM―200V

累積生産台数　8,000台を誇る
伝統を持つ代表機種TM―200をベースに
プラスチックホック専用機種として、世界に
先駆けて開発



プラスチックホック

ベビーウェアー及び各種アパレル製品に最適な
軽くてソフトな肌触りのプラスチックホック

プラスチックホック・精密機械製造販売

精密金型　設計・製作

武　田　精　機　株　式　会　社

TAKEDA SEIKI CO., LTD

代表取締役　武田　精

本　社
〒581-0041
大阪府八尾市北木の本
1丁目12番地
TEL：072（923）5181
FAX：072（923）5186

大阪営業所
〒541-0056
大阪市中央区久太郎町
1丁目8―11
TEL：06（4705）7500
FAX：06（4705）7433

三重工場
〒518-1155
三重県伊賀市治田
字大沢3090―23
TEL：0595（20）9051
FAX：0595（20）9052

株式会社 はーとケアグループ

代表取締役　下田弘子
（京都島根県人会　副会長兼事務局長）

私達は
皆様の笑顔が輝くように
真心でサポートします

健　介
康　護

〒607-8162　京都市山科区椥辻草海道町12-7 タケナカビル5階
TEL：075-583-2611　FAX：075-592-1022

株式会社川商
リバティーいちご

LIBERTY

管理者　若松　ひろ子

〒542-0081
大阪市中央区南船場3丁目1-7
日宝東心斎橋ビル6階1号
TEL：06-6281-3722
FAX：06-6281-3723

ユニフォームはレンタルの時代へ！！
HAN・HIN　阪神ユニフォーム販売 有限会社

弊社は東京オリンピック
誘致を応援しています

本　社　〒540-0021　大阪市中央区大手通2-3-17
TEL06-6943-6990　FAX06-6943-6980
E-mail ： hanshin@hanshin-uniform.jp
http://www.hanshin-uniform.jp/

～あなたの勇気がいのちを救う～
（心肺蘇生法とＡＥＤの活用の普及）
ＮＰＯ法人 大阪ライフサポート協会

事務局　松本　耕司
Koji Matsumoto

〒533-0033
大阪市東淀川区東中島1-17-5　ステュディオ新大阪416
TEL：06-6370-5883　FAX：06-6370-5884
E-Mail：matsumoto@osakalifesupport.jp
URL：http://osakalifesupport.jp/
大阪府ＡＥＤマップ　http://osakaaed.jp/

TAトータルプランニング

お墓の移転（いてん）から建立（こんりゅう）・墓埋法（ぼまいほう）に関する
こと等なんでもご相談に応じます

代　表　竹谷（たけたに）　奨（すすむ）

〒543-0014　大阪市天王寺区玉造元町2-34
TEL　090-3054-9159　FAX　06-6764-7731
Email　：　osktake@ff.iij4u.or.jp

空調機器・熱交換器専門製作
木村工機株式会社
顧問
木村八重子

〒540-0005
大阪市中央区上町A番二三号
TEL〇六―七三三―九四〇〇番（代表）
FAX〇六―六七六四―六一六三番

縁結び

松江観光大使
近畿松江会
常任幹事
木村八重子

〒581-0015 八尾市刑部1-354

松江商工会議所

会頭　古瀬誠
副会頭　大谷厚郎
副会頭　田江泰彦
副会頭　有澤寛

松江市母衣町五五―四
TEL〇八五二―二三―一六一六

まちの達人が、
あなたをもう一つの松江に
お連れします。
ガイドと一緒に、
‘おちらと’歩いてみませんか？

松江おちらとあるき
Matsue Ochirato aruki

【問合せ先】
（一社）松江観光協会 松江おちらとあるき観光案内所
TEL０８５２－２６－２０１１　FAX0852-28-5931
〒690-0887松江市殿町279（松江歴史館内）

山陰合同銀行　大阪支店
支店長　井川　満
〒534-0024
大阪市北区中之島二丁目三番三三号
（大阪三井物産ビル一三階）
TEL（〇六）六二〇一―〇三〇一
FAX（〇六）―六二〇一〇三〇六

関乃五本松節保存会
会長　鵜鶏　修一
審査部長　三角　邦男
〒690-1311　松江市美保関町七類3246-1
メテオプラザ内
TEL　0852-72-3939
FAX　0852-72-3888

松江の雅味
山川・朝汐・路芝
菓子老舗
風流堂
TEL0852-21-2344　風流堂　検索

佐和田登記測量事務所（松江市）顧問
近畿飯南会顧問　縁結び相談
佐和田　丸
〒573-1182
大阪府枚方市御殿山町11-33-610
電話・Fax 072-848-7417　（以下求妻広告）
・本人昭和５４年生　大学院専修科終了　茨木市内神社跡取
・本人昭和４０年生　阪大薬卒薬剤師　土地家屋調査士

ELM
株式会社 エ ル ム 不動産
代表取締役 木村 恵吉
Keikichi Kimura
宅地建物取引主任 大阪第091986号
〒532-0003
大阪市淀川区宮原2丁目12番14-207号室
TEL 06-4807-7676 FAX 06-4807-7677
携帯:080-3108-3330

篠崎倉庫株式会社
代表取締役会長 篠 崎 治
〒650-0023 神戸市中央区栄町通4-1-11
TEL 078-341-6721 FAX 078-361-3647
その他事業所 神戸市中央区弁天町（シーガルハーバービル）
神戸市中央区栄町通（エタニティ栄町ビル）
神戸市兵庫区築地町
神戸市灘区灘浜町（シー・スクエア摩耶）
大阪市豊中市向丘（豊中ビル）

前進座初春特別公演
2014年
1月4日～17日
南座
前進座京都営業所
☎075<561>6300
長谷川伸没後50年
一本刀土俵入
松竹梅湯島掛額
吉祥院お土砂の場
本郷火の見櫓の場
豪華2本立!!
感動と笑いをお届けします

島根県人の溜り場
活旬 大耕 だいます
大阪市天王寺区玉造元町三―二
電話 〇六―六七六八―九七六七
代表取締役 鳥屋尾 勇
（出雲市出身）

不動産コンサルティング 売買 賃貸 仲介 管理
不動産のことならお気軽にご相談下さい。
有限会社 エクスパートプランニング
近畿松江会副事務局長 代表取締役 内部 茂
〒531-0075 大阪市北区大淀南1-4-18
ウェスティンホテル向かいです。
Tel 06-6452-5581 / Fax 06-6452-5455
URL http://www.eks-p.com/ E-mail info@eks-p.com

株式会社高速オフセット
渡 辺 悟
（近畿松江会常任幹事）
〒 530-0001
大 阪 市 北 区 梅 田 3－4－5
毎 日 新 聞 ビ ル 6 階
TEL 06－6346－2801
FAX 06－6346－2801

近畿松江会
常任幹事兼ゴルフ担当 井上 隆吉
副幹事長 井上 芳子
〒569-1147
高槻市土室町23－4
TEL・FAX 072-696-7334

近畿松江会

会　長　　伊藤征治

〒631-0837
奈良市若葉台1－3－2
TEL・FAX　0742-46-5649

近畿松江会

副会長　　有田　嵩

〒572-0042
寝屋川市東大利町23-4
TEL・FAX　072-826-0151

近畿松江会

顧　問　　荊田運三郎

〒674－0074
明石市魚住町清水2249-5
TEL・FAX　078－943－1500

事務局から〝お知らせ〟

近畿松江会にご加入・ご協力いただきありがとうございます。

今年度の第８回近畿松江会総会・懇親会は「近畿松江会この１年」(P15) でご紹介しましたが立地条件も整った設立総会当時の新阪急ホテルにて開催いたしました。

来年度は「ふるさと訪問ツアー」と題し、皆様が行ったことがない？行ってみたい！！松江市の名所旧跡を探訪したいと計画していますが平成２６年３月にはご案内予定です。

※　行ったことがない？行ってみたい！松江市の名所旧跡をご紹介ください

※　近畿松江会加入者をご紹介下さい

松江南高校・旧家政高校・松江農林・松江高専・・・出身の方

＜ 編 集 後 記 ＞

お盆の間には涼しい？松江で編集を終えたいと勇んで原稿をかかえて帰省したものの、大阪並みのあの酷暑の中であえなくダウン。遷宮なった大社さんへの参拝もかなわず帰阪してからまた一ヶ月が経ち、東京オリンピックの開催決定を耳にするほどこの会報の発行が遅れましたことを心からお詫び申し上げます。

原稿をお寄せいただきました皆様のご協力、特に会員の皆様に各町内のことを語っていただく”松江だんだん“のページにご協力いただきました皆様には、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

東京オリンピックの開催決定を国民のひとりとして喜びながらも、これでまた東京の一極集中が更に進むことを考えると、松江に生まれ近畿に住む者としてはなかなか複雑なものを感じたのは私ひとりでしょうか。しかし、出番もあるようです。話題となった「おもてなし」の心、精神もこれを持続し、磨いていくためには大変な努力と一人ひとりの心構えが必要ですが、幸い、松江に縁のある私たちはその点では平均以上のところからスタートできるのかなと考えます。

近畿松江会も更にさらに「おもてなし」の精神に充ち満ちた会になっていきたいと思います。この会報“松江だんだん”が、ふるさと松江に“だんだん”を言いながら、その「輪」が近畿の地で広がっていくことを心から願う次第です。

最後になりましたが、いつものことながら編集のまとめ役を引き受けていただいた竹谷幹事長に心から御礼を申し上げます。

担当　常任幹事・広報　　松本耕司(上本庄町)

近畿松江会　会報　第6号

■発行:平成25年9月

■発行者:近畿松江会事務局　〒543-0014 大阪市天王寺区玉造元町 2-34　竹谷設計事務所内

TEL:06-6221-5740　FAX:06-6221-5741　E-mail:　osktake@ff.iij4u.or.jp

■印刷・製本:株式会社　大一洋紙　〒537-0012 大阪市東成区大今里 1-1-25

TEL:06-6978-2577　FAX:06-6978-2588